



文化を知らなければ  
気づかないまちの魅力

まちを良く見ると、お菓子屋さんや美容院が多い？



あれれ？うなぎの寝床のような長屋ばかり...



坂が多くて歩くのが大変なのはなぜ？

八尾の観光拠点

まちの不思議がわかる

## 越中八尾観光会館（曳山展示館）

■入館料 大人 500円 小人 300円(高校生以下)  
※20名様以上の場合は、団体割引がございます。

■開館時間 9:00~17:00 (16:30受付終了)  
年中無休(但し、年末年始を除く)

TEL(076)454-5138 FAX(076)454-6321



### ■交通アクセス

#### ●所要時間

富山駅からJR高山本線で 25分  
バスで 45分  
車で 35分

富山空港から車で 20分

富山インター(北陸自動車道)から車で 25分

富山西インター(北陸自動車道)から車で 25分

宇奈月温泉から車で 100分

立山・黒部アルペンルート立山駅から車で 60分

高山から車で 120分

## 越中八尾 ガイドマップ



### ■お問い合わせ先

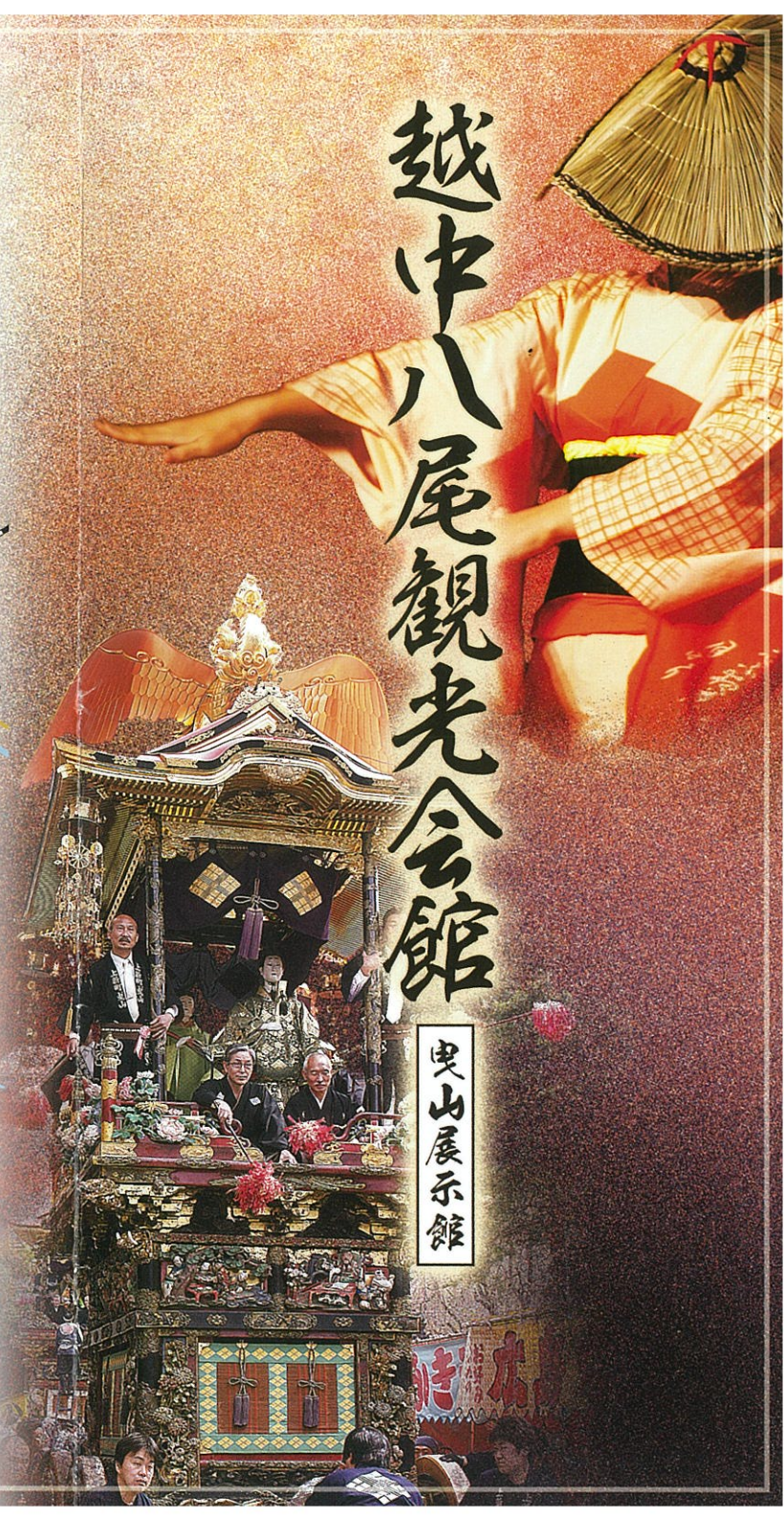
## 越中八尾観光協会

〒939-2342 富山県富山市八尾町上新町2898-1  
TEL(076)454-5138 FAX(076)454-6321

<http://www.yatsuo.net/kankou/>  
E-mail kankou02@cty8.com

# 越中八尾観光会館

曳山展示館







○獅子  
御神像を祀った曳山は神聖なものです。曳山祭では雌雄2体の獅子が曳山の行く先々を清めます。獅子頭は井波彫刻師の名作。

○神輿  
曳山祭は八尾八幡社の春季祭礼の一環として行われ、八幡社の神輿が渡御されます。絢爛豪華な曳山は祭礼を盛り上げるための各町の出し物という一面もあったようで、各町の威信をかけて曳山を豪華に競い合ったのもうなづけます。



○御神像(ひとがた)  
各町内それぞれ異なる人形を乗せます。各町の大切な神が宿されています。京都人形師や富山藩大仏師などの名作が揃います。

# 曳山

上がれ提灯曳山じょうげの坂を  
上がりや八尾の夜が明ける

2階部に御神像を乗せ、1階部で囃子方が演奏する二層式屋台形式です。  
夜になると、彫刻などの飾りは全て取り外され、提灯に付け替えられます。提灯山は不夜城のごとく豪華で祭りは最高潮を迎えます。

○お囃子  
1770年代には1階部で祇園囃子などを演奏されるようになり、以後、浄瑠璃や義太夫、長唄や端唄などが取り入れられた特色ある囃子が各町で作られました。八尾町人の芸を磨く慣習はここにあったようです。



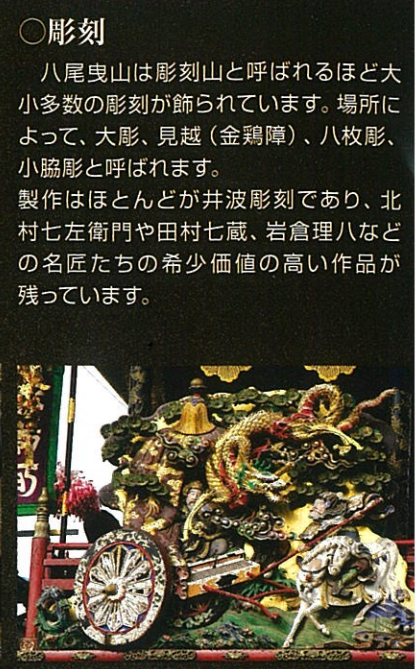
腰長押：牡丹



大彫：琴高(きんこう) 仙人



大彫：国性命(こくせんや)



見越：金龍、周の武王を護るの図



○漆工・彩色  
井波彫刻の見事な彫りに劣らない鮮やかな彩色も八尾曳山の特徴です。絵師には当町の紺屋春甫、湯本椿谷、富士原椿斎のほか、城端の小原治五右衛門、大正天皇の高御座の彩色者である浅井広信、長谷川派の流れを汲む長谷川等叔、狩野派の木村立嶽などの多数の名匠がいます。

○彫金・金具  
八尾の曳山の柱、長押、高欄などには数多くの彫金・金具が施されており、鮮やかに彩色された飾りを引き立たせ、曳山全体を美しく整えています。製作はほとんどが高岡の名工によるものです。

## 曳山展示館

春季祭礼曳山行事で練りまわる6台の曳山のうち3台を展示しています。曳山の装飾は絢爛豪華で迫力があります。特に彫刻は井波彫刻の歴代の名匠らの傑作であり、鮮やかに彩色されています。1階部では雅やかな曳山囃子が演奏されます。館内では曳山囃子と音声解説を聞きながら見学できます。この華やかな曳山文化を築き上げたのは裕福で美意識が高く文化的造詣のあった豪商たち(旦那衆)でした。繁栄の礎となったのは、養蚕業です。特に蚕種(カイコの卵)の販売は全国に及び、最大で4分の1のシェアを占めていたと言われます。現代のおわらの特徴である「しなやかな踊り」「胡弓」「甲高い歌声」などは、これらの旦那衆の遊び心によって明治から昭和にかけて改良されました。成熟した曳山文化によって創り上げられた八尾町人文化の集大成ともいえるでしょう。



二百十日の大風を鎮め五穀豊穡を祈る伝統行事「おわら風の盆」。

八尾の旦那衆が創り上げた八尾町人文化の最高傑作がおわら風の盆です。

曳山展示館では、この本場のおわらを鑑賞できるプランがあります。

本場のおわらの魅力に酔いしれる・・・

### ○踊り

現在の踊りは、豊年踊り、男踊り、女踊りの3種類があります。豊年踊りは明治以降、八尾の芸達者連中によってかっぱねなどの動きを取り入れ洗練されました。また、男踊りと女踊りは昭和4年に日本舞踊家によって新たに振付けられたものです。編み笠を深くかぶるのは、その昔、踊る者の照れ隠しとして手ぬぐいやお面で顔を隠して踊った名残と言われていました。



### ○男踊り

男踊りは黒を基調とした法被姿で勇壮に力強く舞います。鍬打ちや稲刈りなど農作業の所作が取り入れられています。

### ○女踊り

女踊りは黒い帯に浴衣姿で上品に美しく舞います。夏の川原で螢狩りを楽しむ女性の情緒ある姿を日本舞踊の艶めきある所作が一層引き立てます。



### ○豊年踊り

古くから踊られていた五穀豊穡を祈る踊りで、老若男女問わず皆が楽しめる踊りです。

# おわら風の盆

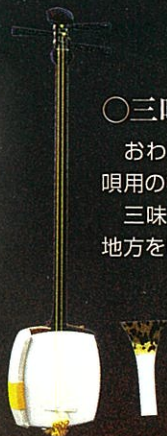
踊り踊るならしなよく踊れ

おわら踊りのしなのよさ

### ○三味線

おわら節のリズムを刻むもので、長唄用の中竿が用いられます。

三味線のリーダーはタテと呼ばれ、地方をしぎります。



### ○胡弓

おわら独特の哀調ある風情はこの楽器によるものと言えます。明治から昭和にかけて胡弓を取り入れるまでは、尺八が使用されていました。

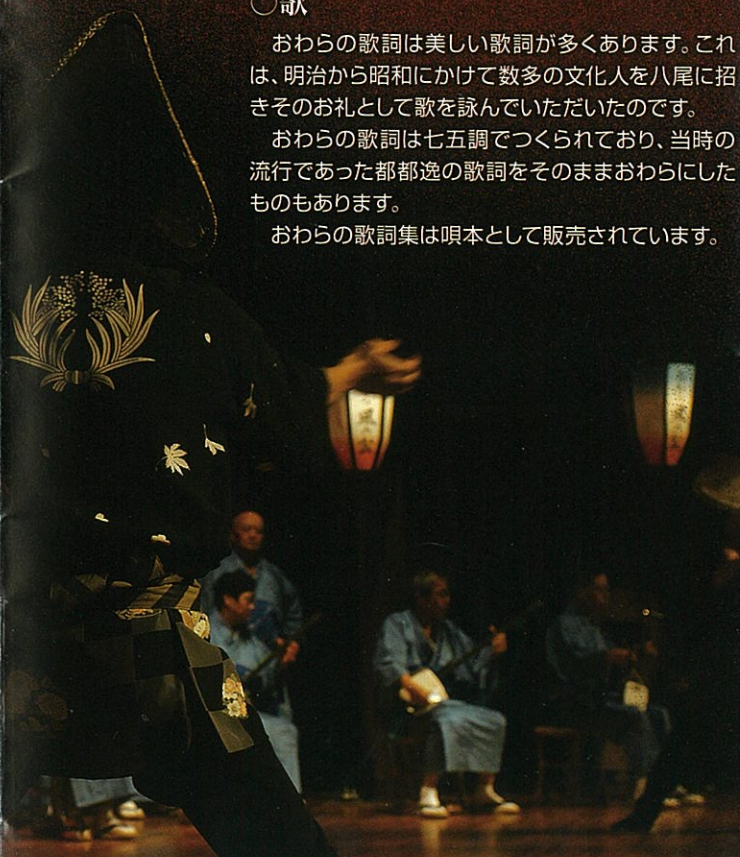


### ○歌

おわらの歌詞は美しい歌詞が多くあります。これは、明治から昭和にかけて数多の文化人を八尾に招きそのお礼として歌を詠んでいただいたのです。

おわらの歌詞は七五調でつくられており、当時の流行であった都都逸の歌詞をそのままおわらにしたものもあります。

おわらの歌詞集は唄本として販売されています。



### ○囃子

唄い手に歌をうながす役割を担います。おわら節の歌詞とは異なり長ばやしとも言われます。ステージ踊りでは、男踊りから女踊りへ移行する合間をとりもつように囃子が長ばやしを歌います。



### ○川崎順二

現代おわらの産みの親が川崎順二。医者であり東町の名家である川崎家の財産をなげうっておわらの改良と発展に尽力されました。

平成21年8月にその功績を後世に伝えるために銅像が建てられました。

## おわらの鑑賞プラン

### ■風の盆ステージ 毎月第2、第4土曜日、13:30～開演

風の盆本番でもなかなか味わえない情緒あふれるステージをたっぷり1時間楽しめます。

三味線と胡弓だけの演奏、3つの唄の聞き比べ、風情たっぷりの夜流しの再現、踊りの所作の解説、舞台演舞、輪踊り体験

個人でも団体でもご見学いただけます。お一人様1500円(入館料込み)。予約不要

### ■おわら鑑賞

団体様向けの事前予約制です。約20分のおわら舞台踊りを楽しめます。旅行行程に合わせたご予約が可能です。

お一人様1500円(入館料込み)。最少人数 5名以上。



## カイコと八尾

にぎればつぶれるような「カイコ」が八尾の暮らしを支え、文化を育ててくれました。

八尾は江戸時代から養蚕業、特に蚕種（カイコの卵）の生産や取引で栄え、かつては「蚕都」と呼ばれました。養蚕は何百年前から人々の暮らしを支え、戦前に至るまで町の基幹産業として隆盛していた歴史があります。その光景は目にすることも再現することも出来ませんが、八尾の文化を育てたカイコにまつわる歴史と足跡を紹介するコーナーです。



## 八尾の旅を快適にする観光拠点

### 越中八尾観光会館案内図



曳山を見たおかげで、  
学びある楽しい  
町歩きができた～

五月三日は越中八尾の曳山祭。江戸時代には富山藩の御納戸所として栄華を極めた町人文化の象徴であった曳山神事は、今もなお伝承されています。

三味線、笛、太鼓の奏でる古式ゆかしい典雅な曳山囃子につれて、凛々しい若者達が揃いの法被姿で曳く六本の曳山。夜ともなれば、数千の提灯に灯がともる提灯山車となって、坂の町を練り歩きます。

八尾町人の繁栄と心意気を今に  
伝える華麗な絵巻物

# 八尾曳山

## 曳山展示館



## 秋路の世界

ふるさと八尾をこよなく愛し、越中おわらの心と風景を板画に刻んだ林秋路。



### 林秋路略歴

明治36年11月18日八尾に生まれる。  
大正6年東京の川崎洋品店に奉公する。  
昭和2年帰郷、八尾町上新町で洋品店を開く。  
昭和12年八尾和紙の紙漉き場を自宅に作り板画の原紙を自作しおわら板画の制作に熱中する。  
昭和4年小杉放庵と若柳吉三郎と出会う、この出会いが以後一途に45年間も秋路を板画に打ち込ませる基因となる。  
昭和49年2月19日逝去する。



# おわら風の盆

九月一日・二日・三日

二百十日の八尾は、  
哀調を帯びた青色で満たされる。

二百十日の風が吹くと、八尾の町はおわら一色に染まります。格子戸の旅籠宿、土蔵、造り酒屋が軒を並べる静かな坂の町にぼんぼりのあかりが灯る頃になると、どこからともなく聞こえてくる三味線、胡弓、太鼓の音、それに合わせて哀調を帯びた唄声の流れはじめると、各町内で一斉に町流しがはじまります。九月一日から三日までの三日間、おわらに寄せる八尾の人々の思いはこの日に熱く燃え上がります。

## ホール

臨場感たっぷりの照明効果でおわら風の盆の風情を再現。最大500名収容できる多目的のホールです。



## 売店・ロビー

ロビー内に設置されている大型テレビでは、曳山祭やおわら風の盆の臨場感あふれる映像を常時見ることができます。

また、おわら踊り体験VTRや八尾観光情報などの内容も盛りだくさんです。



展示だけでなく、  
トイレ、売店、観光情報も充実して便利♪